

イチゴの葉は、なぜ不均等な方向の3枚構成なのか？を‘テキトーに’思考する

イチゴと聞いて、「なにそれと」という人はいないであろう。それぐらいにポピュラーな果物的野菜¹⁾であり、もちろんケーキでもなじみ深い。その赤い実をみれば、食欲がそそられ、そのおいしさは、だんごむしファミリーにも認定されている²⁾。

一般的にスーパーなどで売られているイチゴは、パック詰めされ、収穫の前の状態が分からない。そのため、葉の特徴を気にする人は少ないであろう。しかし、育てている人で、なぜ葉が不均等な方向の3枚なのか、と不思議に感じる人もいるかもしれない。当方もその一人である。イチゴの葉を図1に示す。これをみて分かるように、なぜかイチゴの葉は不均等な方向の3枚で構成されている。この疑問を、Google 検索にて「イチゴ 葉 3枚 謎」で調べるも、解は見つからなかった。そこで、このイチゴの3枚の不均等方向の葉の謎に迫るべく、イチゴの生育状況を観察し、思考した。



図1 イチゴの葉

まず3という数字は、フィボナッチ数であり、植いき新聞の第26号、第32号、第45号でも述べたことがあるように、自然界に多い数字である。そのため、この3に関しては自然界の法則によるものかもしれない。次に枚数以上に疑問となるのは、この不均等な方向性である。普通ならば $360^\circ / 3$ で、 120° の角度つつ3枚の方向性が定まると考えられるが、中央の葉と左右の葉の角度を測ると、実際は 66° 、 74° となり、 120° とはならない。しかし、見方を変えると、 $66 \times 5 = 330$ 、 $74 \times 5 = 370$ となり、ともに360に近くなる。このことから、葉の角度は360度の5等分として構成されているのかもしれない。これを図示すると、図2のようになるであろう。ちょうど五角形の3つの頂点が葉の先端になり、中央で交わるようになれば、イチゴの葉の構成が完成する。なお、この5もフィボナッチ数である。

最後の最大の疑問は、五角形の頂点になぜ位置するのかということである。これに関しては、生育の状況をよく見てみる必要がある。イチゴの生育の特徴にランナー（匍匐茎）がある。ランナーにより親株から、子苗となり、その子苗からさらにランナーが出て、そこでも子苗となる。その様子を図3に示す。



図3 イチゴのランナーと古苗

図3によれば、イチゴはランナーを伸ばし、かつ、その途中で根を下ろし、そこからすべての葉を出しているのである。このようにして葉が出るということは、五角形の3つの頂点を葉の先端とすることが各3つの葉の構成の組み合わせが干渉しないように生長できる可能性を示唆している。すなわち、イチゴの不均等な方向の3枚の葉の構成は、ランナーというイチゴ特有の生長過程と関係が深いものと考えられた。ただし、ここまでの思考に関しては、まったく根拠がない（テキトー）。



図2 イチゴの葉の構成

植 いき 新聞



植物いききサークル

第72号

発行者:犬丸

1) <http://www.kudamononavi.com/columns/view/2> (閲覧 2015.7.5)

2) 植いき新聞 第65号: <http://shokuikinews.link/?p=673> (閲覧 2015.7.5)